

患者の皆様

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）に関する NCGM センター病院 乳腺センターの対応

COVID-19 流行中の NCGM 乳腺センターにおける乳がん診療の方針 (ver 1.0 患者さん用 ; 2020/4/28)

COVID-19 の流行は、私たちの生活に影響をあたえるのみならず、通常のがん診療にも影響を及ぼしており、乳がん治療中の患者さんや、乳房にしこりなどの症状がある方が、診断や治療を受けられるのかと不安になり、実際に医療機関を受診できていないのではないかと危惧しております。個人差はあるものの、がんは進行性の疾患であり、医療機関を受診することで COVID-19 に感染してしまうことへの過剰な心配のために、必要な乳がんの診断や治療が遅れてしまうことは避けなければならないことです。

当院は、COVID-19 に対して感染症指定病院としてリーダーシップをとる一方で、地域がん診療連携拠点病院として、COVID-19 流行中の中でも安全にがん治療を行う対策をとっておりますので、安心して受診してください。

<画像診断>

1. 症状のない検診や定期検査などの緊急でないと判断できる画像診断は、検査の延期をお願いする場合があります。
2. 乳がんの診断や再発を疑う場合などの緊急性のある画像評価や生検を含めた検査は通常通り行います。

<手術>

1. これから乳がん治療を行う患者さんは、治療のスケジュールを立てる必要がありますので、通常通り受診してください。
2. 良性腫瘍などのがん以外の乳房に関する診察、手術希望の患者さんについては、電話などで症状を確認させていただき受診延期もしくは、クリニックでの診療を提案させていただく場合があります。

3. 手術後、退院後の創部確認の外来は通常通り受診してください。
4. 術後フォローアップの外来は、電話にて体調変化がないことが確認できましたら、受診延期をおねがいする場合があります。症状がある場合は、電話にて受診の必要性を判断し、受診いただきますが、連携クリニックでの受診をお勧めする場合があります。

<手術適応>

1. 乳がんの大きさやリンパ節転移で評価をおこなう進行度 (Stage)、生検で明らかとなる乳がんの種類 (ホルモン受容体や HER2 受容体の発現状態) によって、手術先行、術前化学療法、術前ホルモン療法を検討いたします。
現時点で手術を行うことが最善である乳がんであると判断した場合には手術をおこないますので、乳がんの手術が一切できないというわけではありません。
なお、入院日、手術日に発熱が見られるなど、COVID-19 を疑う状況が見られた場合には、手術のスケジュールが変更となる可能性があります。
2. 乳がんの診断ではなく、異型性病変などのハイリスク症例、良性病変の手術は基本的に手術延期をお願いしておりますが、病変の変化によって対応いたしますので、ご相談ください。
3. 遺伝性乳がん卵巣がん症候群に対するリスク低減手術は延期をお願いしております。

<薬物療法>

抗がん剤などの薬物療法には免疫の低下するものがあるため、コロナウイルス流行中は注意して治療を行う必要があります。症状が安定している場合は診察の間隔を空けるなどの工夫をして感染リスクを減らすようにしています。予定通りの治療を継続する場合も、感染のリスクに注意しながら治療を行います。

なお、受診日に発熱が見られるなど、COVID-19 を疑う状況が見られた場合には、治療のスケジュールが変更となる可能性があります。

・早期乳がん治療

1. 現在点滴や内服などの治療を行っておらず、経過観察のみの患者さんについては、予約の延期をお願いする場合があります。何らかの症状がある場合はがまんせずに担当医へお電話ください。お話を伺った上で診察が必要かどうかを判断させていただきます。
2. 術後のホルモン療法は長期処方を行います。落ち着いている場合は来院せずに電話診療

で処方箋を発行できます。

3. リュープリン、ゾラデックスなどのホルモン注射は3ヶ月製剤や6ヶ月製剤を使用します。
4. 術後抗がん剤治療は流行の状況を見ながら延期する場合があります。病状に応じて担当医が判断いたします。
5. すでに術前・術後の抗がん剤治療を行っている方は予定通りに行っていきます。

・転移乳がん治療

1. 現在点滴や内服などの治療を行っておらず経過観察のみの患者さんについては、予約の延期をお願いする場合があります。何らかの症状がある場合はがまんせずに担当医へお電話ください。お話を伺った上で診察が必要かどうかを判断させていただきます。
2. 内服のホルモン療法薬のみの場合、病状が落ち着いていれば長期処方も検討いたします。
3. カペシタビン、ティーエスワンなどの内服の殺細胞薬、イブランス、ベージニオ、アフィニトールなどの内服分子標的薬は副作用のチェックが必要なため、長期処方はいりません。
4. フェソロデックスの注射は予定通り行います。
5. 点滴や内服の抗がん剤も予定通り行います。
6. ランマーク、ゾメタなどの骨転移の治療は、他の治療のために来院される場合は通常通り行います。ランマークもしくはゾメタのみの場合は延期する場合があります。
7. 何らかの理由で1~2回治療が延期になったとしても治療効果に大きな影響は出ません。

※長期処方は最大99日。

<乳房再建>

乳房再建そのものはコロナウイルス感染のリスクとは関連しませんが、通院や診察で他人との接触機会が増えるため、可能な限り延期を検討します。

1. 乳がん手術に伴って再建を希望される場合、いったん乳がんの手術を行い、時期を遅らせて再建手術を行います。
2. インプラントなどにトラブルがある場合はご連絡ください。

<放射線治療>

放射線治療そのものは原則としてコロナウイルス感染のリスクとは関連しません。術後の放射線治療はほとんど肺に当たらないため、コロナウイルス感染症重症化のリスクとも関連しないと考えられます。通院や診察で他人との接触機会が増えるため、延期が可能な場合は延期を検討します。

1. 放射線治療が必要な患者さんについては通常通り、放射線治療の先生へご紹介いたします。
2. 乳房温存術後の放射線治療は延期しても治療効果に大きな影響はないと考えられているため、延期する場合があります。
3. 短い期間で治療できる場合はその方法を検討します。

<遺伝医療>

遺伝医療そのものはコロナウイルス感染のリスクとは関連しません。通院や診察で他人との接触機会が増えるため、延期が可能な場合は延期を検討します。

1. 術前の遺伝カウンセリング、遺伝学的検査など緊急性の高いものについては通常通り臨床ゲノム科にご紹介いたします。
2. 転移乳がんではオラパリブを効かせるかどうかを判断するための遺伝カウンセリング、遺伝学的検査は通常通り臨床ゲノム科にご紹介いたします。
3. がんゲノムパネル検査については、新規の受付はしておりません。再開をしても通常より時間がかかる可能性があります。
4. 術後の遺伝カウンセリング、血縁のご家族の遺伝カウンセリングなどについては緊急性が低いと考えられるため、臨床ゲノム科へのご紹介を延期する場合があります。

<治験・臨床試験>

治験・臨床試験は治療内容によってはコロナウイルス感染のリスクと関連する場合があります。当院ではコロナウイルス感染の対策をきちんと行った上で治験・臨床試験を行っています。

<緩和ケアや生活面での相談>

日常的な症状のコントロールを必要とする方には、公共機関を利用した通院機会を減らすため、地域の医療機関との連携や、訪問診療や訪問看護などの利用をお勧めしています。医療機関との連携や、生活面でのご相談に関しては、がん相談支援センターの相談員がお手伝いいたします。

<職員の対応>

COVID-19 は市中に蔓延しているため、NCGM では院内感染対策を強化するとともに、市中から院内へのコロナウイルスの持ち込みに関して全職員が細心の注意を払っております。職員の体調管理を重視しており、下記の対応を徹底し、院内感染を予防しています。万が一職員に COVID-19 を疑う症状がある場合には、当該職員に PCR 検査を行うなど、適切に対応しています。

なお、院内ではコロナウイルス感染症、疑いの方を治療するゾーンとそれ以外の方を治療するゾーンが完全に分かれているため、NCGM 内で治療を受けることがコロナウイルス感染症のリスクとなることはありません。現時点では乳腺センターのスタッフは COVID-19 陽性の患者さんと接することはなく、感染リスクが一般よりも高いことはありません。

1. NCGM のすべての職員は出勤前に自宅で体温を測定し、報告の上で出勤しています。発熱がある場合は出勤せず、自宅待機しています。
2. 外来診療開始前に電子カルテ端末やデスク等をアルコール等で消毒しています。
3. 診察時は必ずサージカルマスクを着用し、診察ごとに手洗いまたはアルコールによる手指消毒を行っています。
4. 患者さんには病院に入る前に全身体温測定をお願いしています。
5. 診察室へは基本的に患者さんお一人で入室をお願いいたします。付添が必要な場合は原則 1 名まででお願いいたします。

<患者さんやご家族に COVID-19 を疑う症状がある場合>

COVID-19 は市中に蔓延しているため、すべての患者さんに感染のリスクがあると考えて対応しています。NCGM 内はコロナウイルス感染症、疑いの方を治療するゾーンとそれ以外の方を治療するゾーンが完全に分かれているため、NCGM 内で治療を受けることが COVID-19 感染のリスクとなることはありませんが、公共機関等を利用して通院すること

による感染リスクに留意いただく必要があります。また、患者さんやご家族に COVID-19 感染を否定できない状況があるとき、不用意に院内に入られますと、他の患者さんや医療従事者への感染リスクとなりますので、心配な症状がある場合は必ず事前にご相談ください。NCGM にはコロナウイルス感染症の検査、治療の体制が整っているため、万が一患者さんにコロナウイルス感染症の疑いがある場合は適切に対応いたします。

1. 現在抗がん剤治療中の方で発熱以外の症状がなく抗菌薬事前処方がある場合は、抗菌薬の内服を開始してください。48 時間に 37.5℃未満に解熱しない場合はただちにご連絡をください。感染症内科にご紹介いたします。
2. 現在抗がん剤治療中の方で発熱以外の症状(特に上気道症状)がある、または抗菌薬事前処方がない場合はただちにご連絡ください。感染症内科にご紹介いたします。
3. 現在術前検査中、ホルモン療法しか行っていない方、フォローアップのみ方が発熱された場合は感染症内科へご紹介いたします。
4. 遠方の場合はお住まいの地域の医療機関にかかっただけの場合もあります。お電話で担当医にご相談ください。
5. 現在、COVID-19 による院内感染を予防する対策として、入院患者へのご家族の面会は原則、禁じられています。必要な場合は、担当医からご連絡いたします。また、ご家族からのご相談がある場合には、病棟のスタッフにお声かけください。

以上